

平成29年度 第1回桜井市学校規模適正化検討委員会 会議録<概略>

1 日 時

平成29年 5月23日(火)9:30~10:40

2 場 所

中央公民館 2階 研修室2

3 出席者

(1)委員(9名)

岩本廣美委員, 宮村裕子委員, 今谷浩二委員, 河合淳好委員, 山下貴司委員
中西 豊委員, 奥田勝彦委員, 青木浩之委員, 奥田道明委員

(2)事務局(2名)

河合課長, 米田アドバイザー

4 協議内容

(1)議事

①委員会設置の背景と目的, 今後の検討委員会の進め方について
特に意見なし。

②桜井市の学校をとりまく状況について

- 少人数の学校あるいは学級のメリットについて、
- ・学習面では、一人一人にきめ細かな指導が行える。
- ・担任は一人一人に丁寧に声掛けができる。
- ・子ども対子ども、子ども対教師の関わりが密になりやすいというメリットはある。
- ・学校全体で動きやすい。縦の交流が行われやすい。
- ・縦割りグループですぐに動ける状態にある。
- ・人間関係を良好にする。
- ・小規模の中では非常に学校とPTAの連携が取りやすい。
- ・地域とつながっていける。
- ・学習面でも生活面でも一人一人を理解することができる。
- ・地域・保護者の方ともよりわかり合える。
- ・地域の方は子ども一人一人の名前や性格を生まれた時から見ておられるので、色々な場面で協力を得られやすい。情報もいただきやすい。

○小規模校のデメリットとして

- 子ども対子どもの刺激がかなり少ない。
- 単学級の場合クラス替えができず、6年間同じメンバーで育っていく。
- 社会性・社交性・協調性の刺激が少ない。
- 修学旅行、卒業アルバムの一人当たりの費用がかさんでしまう。
- PTA役員の順番がすぐに回ってくる。
- 校務の数が減らないのに職員の数が減っていくと、一人当たりの負担が増える。
- 先生同士の切磋琢磨する機会が少なくなる。
- 中学校の部活動で顧問がない。しかし地域のニーズがあり大変な状況にある。
- 中規模・大規模校は学年を通して授業を持つが、小規模校は1年・2年・3年と全学年を受け持つことになり、かえって採点の量は増える。2教科・3教科を持つ教員もいる。
- 幼稚園から一緒にいて何も言わなくても考えていることがわかる。そのため、話し合いをしなくて済むので表現力が育っていかない
- 単学級の場合、子どもたちの中で何か問題があった時にすぐ解決できず、引きずってしまうことがある。クラス替えがあれば、新たな気持ちで新年度を迎えられる。

○その他

- 社会に出たら荒波にさらされる。子どもたちにとって、たくましく強く育ち、社会に適応できることが大事である。
- 子どもたちは地域の宝。育つ環境づくりということで適性化は大事だと感じる。
- 新たな時代に求められる教育活動を充実させることが困難な時、子どもたちにとってよりよい教育環境の充実についてこれからも討議を続けていきたい。